

第12回神奈川活性化サロン

テーマ「コロナ禍における地域の現状とポストコロナに向けた取組み」

◇ 令和3年4月15日開催

◇ ゲストスピーカー 馬車道商店街協同組合 理事長 六川 勝仁 様

「コロナ禍での地元商店街の取組み」発表概要

○ 馬車道の歴史

- 1867年(慶応3年)、外国人居留地から日本人の町までを結ぶために整備された計画道路で、2017年に開通150周年を迎えた。
- 馬車道には歴史的建造物が多く、文明開化の発祥として、ガス灯、アイスクリーム、民間新聞、街路樹等が日本で初めて誕生した。

○ 馬車道の街づくり

- 全国でも珍しく、過去2回大きなまちづくりを実施。
 - 1回目は、横浜市経済局より「都心型モデル化商店街第1号」に指定され、1975年に「まちづくり協定書」を締結し、2期に渡って実施し、1978年に完成。※馬車道の街づくり協定書は全国の街づくりの協定書のモデルとなっている。
 - 2回目は、市のライブタウン整備事業の施策に則って行われ、本物のガス灯設置や英国から赤レンガを輸入し歩道整備を行うなど大人の本物の街を目指し、2003年に完成。

○ コロナ禍での馬車道商店街の取組み

- 横浜市の、商店街等の活動に対する一時金の交付を受け、景観整備(ガス灯の塗装工事)に活用。
- 国の支援事業である「GoTo商店街事業」において、当商店街は先行募集で伊勢佐木町1・2丁目地区商店街との連携事業が採択された(国の方針(年末からの商店街イベントの一時停止)や年明けの緊急事態宣言の発出等を受け、事業実施期間が延長されたものの、未だ実施できる状態にはなっていない)。
- 客数の大幅な減少により、2店舗が組合を脱退したが、コロナ禍の収束が見えない中、今後も退会する店があるのではないかと考えている。一方で、昨年から今年にかけて話題の高級食パン店や有名とんかつ店等が立て続けにオープンし、新たに3店舗が組合に加入した。他の商店街と比較し、恵まれている状態だと思うが、各店舗が四苦八苦しながら取り組んでいる。
- アイスクリームの記念イベントや馬車道まつり等、無料で参加できる大きなイベントを毎年実施しているが、昨年は街頭イベントは全て中止。本年も5月に予定されていた街頭イベントは中止した。全国のイベントの多くが中止や規模を縮小しての開催等、世の中が様変わりしており、商店街も今までのイベントの繰り返しではなく、新しい対応策を講じていかななくてはならない。
- 商店街の飲食店も、コロナ対策のガイドラインを活用して、感染予防に向けた取組みを推進しており、従業員の安全・衛生管理はもとより、徹底した感染対策を講じ、徐々にお客も戻ってきている。